

5. 研究報告抄録

瀬戸臨海実験所研究報告 (Publications of the Seto Marine Biological Laboratory) 第 36 巻第 3 号が, 1993 年 11 月 30 日に発行され, 掲載論文 5 篇, 総頁数 89 頁。第 36 巻第 4 号が, 1994 年 11 月 15 日に発行され, 掲載論文 8 篇, 総頁数 95 頁。第 36 巻 5/6 合併号が 1995 年 7 月 31 日に発行され, 掲載論文 9 篇, 総頁数 115 頁。

第 36 巻第 3 号 (1993 年 11 月)

- 論文 10. Ho, J.-S. New species of *Clavella* (Copepoda: Lernaeopodidae) parasitic on Japanese rattails (Pisces: Macrouridae). [一: 日本産ソコグラ科魚類に寄生するナガクビムシ科橈脚類 *Clavella* 属の 6 新種]. 相模湾, 土佐湾および沖縄沖の深海産ソコグラ科魚類の口腔あるいは鰓室内に寄生するナガクビムシ科橈脚類の 6 新種を記載し, 近縁種との形態比較を行った。(107–118 頁)
- 論文 11. Ichikawa, M. Saccoglossa (Opisthobranchia) from the Ryukyu Islands. [市川マリナ: 琉球列島産の囊舌類(ウミウシ類)]. 中部および南部の琉球列島産の囊舌類 21 種(内 5 属 11 種は新種)の外部形態を記載した。(119–140 頁)
- 論文 12. Hirayama, A. & Takeuchi, I. New species and new Japanese records of the Gammaridea (Crustacea: Amphipoda) from Matukawa-ura inlet, Fukushima Prefecture, Japan. [平山明・竹内一郎: 福島県松川浦産のヨコエビ類(甲殻類: 端脚類)の新種と日本新記録種]. 福島県松川浦でプランクトンネットで採集した 19 種のヨコエビ類の内, 8 新種(8 属)を記載した。(147–178 頁)
- 論文 13. Kubota, S. Multiple colonization of a bivalve-inhabiting hydroid *Eugymnanthea japonica* (Leptomedusae: Eirenidae) in Japan. [久保田信: 日本産カイヤドリヒドラクラゲ(軟クラゲ目: エイレネクラゲ科)の多重入植]. 実験室での飼育により得られたクラゲを検査し, 本種が宿主二枚貝内に多重入植していることが判明した。また, 少数個体が入植したならば, 本種の宿主への定着は雌雄で差がないことが示唆された。(179–183 頁)
- 論文 14. Grygier, M. J. Cryptoniscidae s. s. (Isopoda: Epicaridea): nomenclatural history and recommendations. [一: クリプトニスクス科(等脚類: ヤドリムシ類)の命名の経緯と勧告]. 狭義のクリプトニスクス科等脚類の属および科のレベルの命名の経緯を再吟味し, 命名規約に反する取扱を指摘し, かつこれを是正した。(185–195 頁)

第 36 巻第 4 号 (1994 年 11 月)

- 論文 15. Huys, R., Ohtsuka, S. & Boxshall, G. A. A new tantulocaridan (Crustacea: Maxillopoda) parasitic on calanoid, harpacticoid and cyclopoid copepods. [一・大塚攻・一: カラヌス類, ソコミジンコ類およびケンミジンコ類に寄生する新種のバシポデッラ類(甲殻類: アゴアシ類)]. 3 目のカイアシ類に寄生する(カラヌス類およびケンミジンコ類からは初記録) 沖縄産の新属新種 *Nipponotantulus heteroxenus* について, いくつかの生活段階を記載するとともに近縁の属 *Stygotantulus* との相違を指摘した。本種が所属する科(Basipodellidae)も決定した。(197–209 頁)

- 論文 16. McLaughlin, P. A. & Konishi, K. *Pagurus imafukui*, a new species of deep-water hermit crab (Crustacea: Anomura: Paguridae), with notes on its larvae. [一・小西光一：深所産ヤドカリの1新種とその幼生の記録(甲殻類：ヤドカリ類：ホンヤドカリ科)]. 本邦太平洋岸の水深126 m および 300 m より採取したツノガイ類の貝殻に限定入居する一新種のヤドカリ(著しい多型種)およびその初期幼生を記載した。(211-222 頁)
- 論文 17. Iwasaki, K. Distribution and bed structure of the two intertidal mussels, *Septifer virgatus* (Wiegmann) and *Hormomya mutabilis* (Gould). [岩崎敬二：潮間帯性イガイ類, ムラサキインコガイとヒバリガイモドキの分布とベッド構造]. 白浜の潮間帯ではムラサキインコガイはヒバリガイモドキに比べより波当りの強い岩礁に分布し, 共存区域でもより上位にみられた。両種のベッド内にみられる稚貝のほとんどはヒバリガイモドキであった。ヒバリガイモドキは抗力に対してより強く, より密度が高い足糸と個体がよく詰まったベッド構造の故に, より大量の堆積物が蓄積していた。ムラサキインコガイの下限およびヒバリガイモドキの上限を決定する要因についても論議した。(223-247 頁)
- 論文 18. Yusa, Y. Size-related egg production in a simultaneous hermaphrodite, the sea hare *Aplysia kurodai* Baba (Mollusca: Opisthobranchia). [遊佐陽一：同時的雌雄同体のアメフラシ(軟体動物門：ウミウシ類)のサイズに依存した卵生産]. 実験室で似たサイズの個体同士を対にして他個体から隔離した結果, 大型個体の方が一日当りより多くの卵を生んだ。卵サイズは親個体のサイズにかかわらず一定であった。野外の個体群でも体サイズと卵生産率に正の相関関係がある可能性が高いことを論議した。(249-254 頁)
- 論文 19. Yusa, Y. & Yamamoto, T. Inside or outside the pits: variable mobility in conspecific sea urchin, *Acanthocidaris crassispina* (A. Agassiz). [遊佐陽一・山本智子：穴の内と外：ムラサキウニにおける移動性の種内変異]. ムラサキウニは岩礁にある小穴の内にも外にも棲む。穴の中に棲む個体はまったく移動しなかったのに対して, 穴の外にいる個体は特に夜に動いていた。穴の内外で移植実験を行なったところ, このウニの移動性はある程度可塑的であり, 穴の外にいた個体も穴の中に入ることを好んだ。また, 穴の中にいる個体の方がより短い棘, より重い生殖腺をもっていた。本種の穴居生活の適応的意義について論議した。(255-266 頁)
- 論文 20. Mori, S. Daily rhythmic activity of the sea-pen *Cavernularia obesa* Valenciennes. XIX. Further consideration on the mechanism of the circadian rhythmic activity. [森主一：ウミサボテンの概日リズム活動 XIX. 概日リズム活動の機構についてのさらなる考察]. ウミサボテンの概日リズムの概略を記載し, その維持機構として体液の水素イオン濃度の周期的変化をあげた。この代謝説を支持する最近の文献を示すとともにこの説の難点および別の維持機構の考察を行なった。(267-276 頁)
- 論文 21. Kubota, S. Reproductive season and some biological notes on a bivalve-inhabiting hydrozoan *Eugymnanthea japonica* (Thecata-Leptomedusae: Eirenidae) at Shirahama, Tanabe Bay, Japan, with comparison of related species. [久保田信：田辺湾, 白浜産カイヤドリヒドラクラゲ(有鞘目-軟クラゲ目：エイレネクラゲ科)]

の生殖時期, 生物学的記録および近縁種との比較]. 白浜産カイヤドリヒドラクラゲの生殖時期(主として高水温時の6-11月), 宿主チレニアイガイへの付着部位, 共生率の月変化, カクレガニ類との同時共生率, および近縁種との小型の宿主への共生率の相違などを記録した。(277-282頁)

- 論文 22. Budnikova, L. L. First finding of the amphipod *Centromedon pumilus* (Lilljeborg, 1865) in the Sea of Japan and description of the species. [一: 日本海初記録のヨコエビ *Centromedon pumilus* の記載]. ノルウェー沿岸産の標本に基づき原記載され, 後に北大西洋から再記載されていたヨコエビの一種が日本海から採集されたのでこれを記載した。(283-291頁)

第 36 巻第 5/6 合併号 (1995 年 7 月)

- 論文 23. Grygier, M. J. & Ohtsuka, S. New species of *Synagoga* (Crustacea: Ascothoracida) from plankton off Okinawa, Japan, with an SEM study of the carapace. [一・大塚攻: 沖縄沖のプランクトン性 *Synagoga* 属の一新種(甲殻類: 囊胸類), およびその甲殻の走査型電子顕微鏡による研究]. 太平洋初記録の *Synagoga* 属の一新種を自由遊泳性の雄成体をもとに記載し, 甲殻の彫刻について走査電顕で調べた。(293-311頁)
- 論文 24. Mona, M. H. & Miyazaki, K. Preliminary observations on the foot in the homing limpets, *Siphonaria acmaeoides* (Pilsbry) and *Patelloida saccharina lanx* (Reeve) with light and scanning electron microscopy. [一・宮崎勝己: 帰家性の笠貝, シロカラムツガイとウノアシガイの足部の光学及び走査型電子顕微鏡による観察]. 基質への付着力および移動性の異なる2種の笠貝の足部について, 組織切片による組織学, 組織化学的観察と, パラフィン包埋試料を利用した走査型電子顕微鏡観察を行い, その構成を記載し機能について検討した。足部の基本的構成は, 両種でほぼ同様であったが, 各種の腺の種類や発達状態に違いがみられ, それはおそらく両種の生態学的, 行動学的な差異を反映しているのであろう。(313-324頁)
- 論文 25. Miyazaki, K. & Stock, J. H. *Rhynchothorax mediterraneus*, the first record of Rhynchothoracidae (Pycnogonida) from Japan. [宮崎勝己・一: 日本初記録のイボウミグモ科(ウミグモ類), *Rhynchothorax mediterraneus*]. イボウミグモ科に属するウミグモ *R. mediterraneus* が田辺湾より採集された。この採集記録は日本における本科の初記録であり, 本種の分布域を大きく広げるものである。(325-327頁)
- 論文 26. Mori, A. A new species of *Liropus* (Crustacea: Amphipoda: Caprellidea) from off Minabe, Kii Peninsula, central Japan. [森敦史: 中央日本, 紀伊半島南部沖産 *Liropus* 属の一新種(甲殻類: 端脚類: ワレカラ類)]. 紀伊半島南部沖産のワレカラを, 新種 *L. japonicus* として記載した。これにより, 本属が太平洋から初めて記録された。本新種はその特異な第1触角の形態によって同属他種から容易に区別される。(329-337頁)
- 論文 27. Imafuku, M. & Ikeda, H. On the two types of the hermit crab *Pagurus lanuginosus* (Crustacea: Anomura: Paguridae). [今福道夫・池田久和: ケアシホンヤドカリ(甲殻類: ヤドカリ類: ホンヤドカリ類)の2型]. 白点型と黒点型は, 分布, 形態学的2形質, 性的隔離などの相違から別種であることが示唆された。(339-349頁)

頁)

- 論文 28. Kubota, S. & Horita, T. Life cycle of *Bougainvillia bitentaculata* (Hydrozoa: Anthomedusae) in Japan. [久保田信・堀田拓史：日本産エダクラゲ（ヒドロ虫類：花クラゲ類）の生活史]. ポリプと未成熟クラゲ（1 日齢）の形態と刺胞相および卵サイズ，放卵時刻，クラゲの季節消長を初めて記載した。（351－363 頁）
- 論文 29. Kubota, S. Cnidome and growth of a *Cirrholovenia tetranema* (Leptomedusae, Cirrholoveniidae) in Japan. [久保田信：日本産マキヒゲクラゲの刺胞相と成長]. クラゲの刺胞相，成長，配偶子，放卵時刻を初めて記載した。本種は日本初記録で，地理的分布についてまとめた。（365－378 頁）
- 論文 30. Yamato, S. A new species of the genus *Melita* (Crustacea: Amphipoda) from a high tide pool at Shirahama, on the west coast of the Kii Peninsula, Japan. [大和茂之：紀伊半島西岸白浜の高潮位タイドプールから採集された *Melita* 属の一新種（甲殻類：端脚類）]. *Melita* 属の一新種，*M. shiodamari* を記載した。本新種は，日本産の同属の他種とは形態的に大きく異なっており，南半球産の種類にむしろ類似する。インドー太平洋産の近縁属を含めて比較・考察のうえ，本属内の近縁種群として *awa-complex* を提唱した。（379－388 頁）
- 論文 31. Harada, E. & Nishino, M. Differences in inhalant siphonal papillae among the Japanese species of *Corbicula* (Mollusca: Bivalvia). [原田英司・西野麻知子：日本産シジミ類（軟体動物：二枚貝類）の入水管突起の相違]. 3 種の日本産シジミ類（マシジミ，ヤマトシジミ，セタシジミ）の入水管突起の形態差および貝殻の計測学的相違を明らかにするとともに分類について総説した。また，ホンコン産のタイワンシジミと白浜産 *C. insularis* とも比較を行なった。（389－408 頁）

（編集委員会）

6. 業績目録

欧文業績

814. Takayama, J. & Wada, K. 1992. Are barricading and neighbor burrow-plugging by male crabs of *Ilyoplax pusilla* (Crustacea: Brachyura: Ocypodidae) related to feeding or mating? J. Ethol., 10: 103－108.
815. Harada, E. 1993. Carcinology in classical Japanese works. F. Truesdale (ed.), History of Carcinology, pp. 243－258, A. A. Balkema.
816. Ichikawa, M. 1993. Saccoglossa (Opisthobranchia) from the Ryukyu Islands. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 36: 119－139.
817. Kubota, S. 1993. Multiple colonization of a bivalve-inhabiting hydroid *Eugymnathaea japonica* (Leptomedusae: Eirenidae) in Japan. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 36: 179－183.
818. Grygier, M. J. 1993. Cryptoniscidae s. s. (Isopoda: Epicaridea): nomenclatural history and recommendations. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 36: 185－195.
819. Grygier, M. J. 1993. Late planktonic naupliar development of an ascothoracidan crustacean (? Petrarciidae) in the Red Sea and a comparison to the Cirripedia. Contr.